

日田市地域公共交通総合連携協議会

平成20年3月19日設置
平成21年3月5日連携計画策定



概要

日田市地域公共交通総合連携計画の2年目の事業で、市内コミュニティバスの再編を行い、新規の路線と車両で高齢者や障がい者が利用しやすい生活に密着した市内循環バスの実証運行を行う。

①導入の経緯

平成12年度から、主に観光客の輸送を目的としたコミュニティバス「ひためぐり号」を運行していた。(事業主体:コミュニティバス運行協議会)

「ひためぐり号」運行開始から8年が経ち、車両の老朽化が進み、生活路線でないために一般の乗客の利用が伸び悩んでいた。

この状況を打開するために平成20年の公共交通総合連携計画にコミュニティバスの再編が提案され、承認された。

②市内循環バスの実証運行

市内循環バスは生活路線を主とし、市内中心部の住民や、周辺部の住民が市内に来た時に移動しやすいように運行時間や形態を設定している。

使用するバスは高齢者や障がい者が利用しやすい小型ノンステップバス(HINOポンチョ)2台を購入した。愛称を広く募集し、「ひたはしり1号、2号」と命名した。

バスの運行・維持管理は地元のバス会社に委託している。料金は低く設定しており、また、バス会社の回数券も使えることでより利用しやすくなっている。

日田市でも高齢化が進み、また運転免許証の返納の推進などにより公共交通の必要性が高まってきており、地域に根ざした交通体系を目指す。

③今後の方針

車内やバスセンター等に市内循環バスに対するアンケート用紙を置くなど 利用客の意見を集約し、より利便性・公共性の高いダイヤ改正(H22.10)を目指す。また、平成23年度の本格運行に向けて、さらに情報収集を行い、市民にとって必要不可欠な市内循環バスを構築していく。



日田市地域公共交通総合連携計画

H21年度 中津江・上津江地区市営バスのデマンド運行

H22年度 市内コミュニティバス再編

H23年度 大鶴・夜明地区デマンドバス運行